

このような様々な時代背景を踏まえ、十分に精査しながら、進めていきたいと考えています。

市の下水道整備状況は？

Q 市として、下水道整備はどのように考えているのか。現在、どのくらいのパーセントで整備されているのか、今後、どのように進めていくのか。

A 平成24年度末で、下野市における農業集落排水と公共下水道の普及率は84・9%になります。

市では平成26年度までの下水道の整備計画に基づいて進めています。

平成27年度からさらに今後どのように進めていくかということについて、本年度・来年度の2か年で今、検討しているところです。

先日の新聞報道においても、合併浄化槽を含めた下野市での普及率は県内4位で、決して低い方ではありません。

市街化区域の中でも仁良川の区画整理等を実施していますが、それ以外は、おおむね市街化区域の整備が終わっています。

今は調整区域の整備と仁良川地区の区画整理の整備ということで進めているところです。

屋外拡声器が聞こえない

Q 屋外拡声器について、12時と5時の音楽が鳴っているのはすぐ良く聞こえるが、何かお知らせをしているときは、共鳴してしまって、何を言っているかわからない。災害時に市民が必要な情報を入手できるというところまでいけないと思う。

ぜひ改善をお願いしたい。改善の予定があるかお聞きしたい。

A 先日の全国瞬時警報システムの試験において、市内にある拡声器の各地区に職員を配置し、それらの状況を確認しました。

その結果、8か所で「やや聞きづらい」ということが確認されました。これにつきましては、委託業者に状況を説明しながら改善策を検討してまいりたいと考えています。

先日の試験については、音量レベルを最大の10にしたため、確かに共鳴してしまい、音が割れたという地点もいくつか見られました。通常の放送につきまちは、うるさいという苦情もありますので、レベル6（7くらいで放送しています）

レベルについては、場所や条件によって聞こえ方が変わってくるということもあり、その点についてはご

理解をいただかなくてはならないものと考えています。

自主防災活動中にけがをしたら

Q 栄町自主防災会が昨年発足し、役員を中心に組織体制づくりや研修活動を行ってきた。

今年度になって活動を広げ、各班の活動の核として、避難要援護者への支援活動や近隣への緊急災害の情報伝達などの役割を担う地域防災推進委員を各班に設けた。

現在85%の班から選出されている。残りの15%は班長も含め構成員の多くが要援護者側ということが多い。

選出された推進委員が支援活動の最中に、もし事故・けがなどが発生した場合に補償などはどうなるのか心配だという声があがっている。市でこういった場合の傷害補償などを考えているか。なければ検討していただきたい。

A ご提案のあった補償の件について、早急に検討していきたいと考えています。

また、防災訓練の際のけがなどは、市で保険に加入しています。

緊急速報エリアメールの周知

Q 9月号に掲載された「緊急速報エリアメール」についての記事だが、私は携帯電話会社まで行って設定してもらわなければならないかった。改めて設定方法の広報や、機会があれば講習会を開いて欲しい。

A 下野市内に特化した「緊急速報エリアメール」については、NTTドコモ、KDDI、ソフトバンクが対応している電話会社となります。設定方法について、再度広報紙等で周知を図っていきたくと考えています。

最近、空き家が増えてきたが：

Q 空き家対策への条例化など、市の考えがあるか。

A 空き家条例については、先の副市長会議でも話題にありました。各自自治体で条例化してはとの意見もあるのですが、国会の方で空き家対策の法律を作るといふ動きがあるようです。現在、空き家に対して行政が行える権限に限界がありますので、国会での法律化の動きをみながら検討してまいりたいと考えています。